

# 神戸地域夢会議「もっともっと「神戸」を楽しもう～夢の実現めざして～」

と き 平成21年12月5日(土)

ところ 神戸市立生田文化会館 大ホール

参加人数 約100名

## 開催趣旨

地域ビジョンに描かれた地域の将来像「楽しいまち・神戸」の実現に向けた取り組みを進める中で、明らかになってきた地域での課題を振り返り、今後のあるべき姿等について意見交換を行う。  
また、これらを踏まえ、策定から8年が経過し、想定年次の中間年を過ぎた地域ビジョンの点検等につなげていく。

## テーマ

“もっともっと「神戸」を楽しもう～夢の実現めざして～”

## プログラム

- ・プレゼンテーション：「神戸の未来 兵庫の未来」 中塚則男 兵庫県政策参事
- ・趣旨説明：野崎隆一 NPO法人 神戸まちづくり研究所事務局長(ビジョン委員会副委員長)
- ・分科会
  - 第1分科会 「地域の農・漁を通じ、新たな交流を創り育む」
  - 第2分科会 「環境にやさしいライフスタイルを地域で築く」
  - 第3分科会 「世代間・地域間のつながりを深める」
  - 第4分科会 「安全・安心な地域を創る」
  - 第5分科会 「地域の賑わい・魅力づくりを進める」
  - 第6分科会 「グローバルな魅力を育て・発信する」
- ・全体会(分科会報告/意見交換)



## 全体会(分科会報告・意見交換)の概要

**分科会報告** ※分科会協議の概要等を代表者からそれぞれ報告

### ●第1分科会(地域の農・漁を通じ、新たな交流を創り育む)

#### <報告者>

新規就農に取り組むには、どうしたらよいのかははっきり分からない。行政のコーディネートが必要ではないか。

農業を取り巻く課題は、新規就農・後継者育成への取組や環境にやさしい栽培方法の確立、ボランティアの活用等、様々なものがある。

こうしたなかで、農都・神戸の実現を図るには、地産地消の推進、都市と農村との交流を進めていくことが一番大切ではないか。

こうした取組を今後、よりいっそう推進していくことが必要と考える。



#### <知事>

新規就農についての相談は、幾つかルートがある。県立産業会館内に新規就農相談センターをつくっており、お金の話も含めて、ワンストップで就農相談に応じてくれる。また、西区神出には楽農生活センターをつくっており、プロではなく楽しみの農業をめざす人たちの相談に応じている。さらにもっとプロをめざそうという人は、地域の農業先導者等の紹介も行っている。

農業については、今、漠然とした期待が非常に強いのではないかと感じている。二次産業・三次産業がなかなか人を雇ってくれないので、農業がこれを吸収する。長い目で見ればそういう方向に行くのではないかと考えている。二次産業・三次産業から農業に流れるルートをきっちりとつづけておかないと、食料危機・水産危機やエネルギー危機への対応が難しくなるのではないかと感じている。

都市と農村の交流については、ぜひとも進めてほしい。神戸の場合は、西区と北区という大都市の近辺で、農村地域を抱えているから、非常に交流がしやすい。ただ、神戸市民の方には、但馬や丹波、西播磨というような少し遠い地域にも目を向けて欲しい。第2のふるさつを見つけることができると思う。

### ●第2分科会（環境にやさしいライフスタイルを地域で築く）

#### <報告者>

循環型の社会を構築するには、その活動に対する仲間づくりを地域の中で進めていくことが大切ではないか。

仲間をつくり、活動に対する達成感を味わうことができれば、地域活動のいっそうの拡がり期待できるのではないかと考えている。

#### <知事>

循環型社会をめざしていくには、仲間づくり・連帯感が大切というのは、まさにそのとおり。

県では小学校3年生を対象に環境学習を実施している。こうした取組ができるのは、堆肥の管理など、県下の環境グループの人たちにバックアップをしてもらい、色々と協力していただいているからである。こうした取組をしていただいている皆さんには、ほんとうに感謝している。

### ●第3分科会（世代間・地域間のつながりを深める）

#### <報告者>

少子高齢化が進み、地域では子供たち・年寄りたちが孤立を深めている。多世代間の交流を進めなければ、まちはつながっていかないのではないかと感じている。

こうした世代間の交流を進めるにあたって大切なのは、居場所づくりではないか。

特に、次代を背負うのは子供たちであるため、子供を地域の主役として、育てていくために、色んなことを考えていかなければいけないのではないかと感じている。

また、家族の絆を深めるための取組も重要ではないか。



#### <知事>

多世代の居場所づくりについては、商店街の空き店舗や大学の中というように、どこでもいいが、そのたまり場を用意することが重要ではないか。

県下には、約2000の「まちの子育てひろば」があり、多いところでは、毎週、地域の親子が集まり、親がよもやま話をしたり、子どもたちが遊び・交流したりしている。こうした中で一番困るのが、場所をどのように見つけていくのかということである。

そういう意味で、どんなところでもいいから場所を見つけることが、多世代交流のきっかけになるのではないかと思う。

ちなみに、高齢化社会の中で、欠かせないサービスになりつつあるのが、配食サービスではないか。今後、配食サービスのキーステーションを県下にどのようにつくっていくのか、地域の皆さんと共に考えていくことが必要と考えている。

震災以降、神戸では、非常にきめ細かく、まちづくりグループの活動が展開されてきた。震災による復旧・復興過程が大詰めを迎える中、こうしたグループでは、次の展開・テーマに悩んでおられるところが多いと思う。次の展開・テーマをうまく探し出し、新しいまちづくり活動へと衣替えをすれば、地域がさらに活性化してくるのではないかと思う。

## ●第4分科会(安全・安心な地域を創る)

### <報告者>

最近、地域のコミュニティが崩壊し、地域のイベントなどに参加する人が少ない状況にある。

地域でのイベント参加者が増えれば、地域のつながりができ、地域の安全・安心にもつながっていくのではないか。

また、同じ年齢の人達が集まることも大切ではあるが、若者から老人までの世代を超えた縦のつながりは、もっと必要ではないかと考える。

地域の活性化、安全・安心を図っていくには、縦のつながりを深める取組がもっと必要ではないか。



### <知事>

地域の活性化、安全・安心に取り組むには、縦横のつながりが大切だというのは、まさしくそのとおりである。

特に縦のつながりをどうつくっていくのかということについては、これからも、地域の皆さんと共に議論を進めていきたい。

## ●第5分科会(地域の賑わい・魅力づくりを進める)

### <報告者>

(地域ビジョンが策定された)8年前より、経済環境は悪化し、地域活動は高齢化により、その機能が低下している。

こうしたなか、地域の産業を活性化していくためには、産業間の交流や、若者との交流といったコミュニティづくりを進めていくことが必要ではないか。

こうした取組を通じて、例えば、若者に地場産品を買ってもらえる新たなアイデア・取組が出てくるのではないか。また、こうした取組には行政の後押しも必要と考えている。

### <知事>

まちの賑わいづくりとして、市内では、最近、新長田商店街の「鉄人28号」や、「三国志」のスタンプラリーといったおもしろい取り組みが行われている。

スタンプラリーを行う際に、全部スタンプがもらえれば、商品ももらえるというように、参加者にアドバンテージを与える仕掛けをつくっていけば、もっと大勢の人が集まり、地域の賑わいへとつながるのではないかと思った。

このような積極的な取り組みをどういう形で、地域の知恵を生かし、行っていくのかということが、勝負になるのではないかと考えている。

### ●第6分科会（グローバルな魅力を育て・発信する）

#### <報告者>

神戸の美しさ、魅力を世界に発信していくには、神戸としての、神戸ならではのアピールをもっと行っていく必要があるのではないかな。

また、外国人は地域で生活する際、日本人と同じように接してもらいたいと感じている。

さらに、神戸の留学生は、神戸に恩返しをしたいと思っているので、神戸での就職や起業等につながる支援をしてもらえればありがたい。



#### <知事>

神戸の魅力というのは、山と海に囲まれているというところにあるのではないかな。神戸のような大都会にいながら、30分ほどで山に入れ、深山幽谷の雰囲気味わえる。ひと山超えれば、そこには田舎がある。非常にバラエティに富んだ地域であると感じている。こうした地域の魅力を活かし、アピールしていくことが大切である。

神戸は他の地域と比べて、外国人とも、日本人と同じように、付き合っていこうと心がけている人が多いと思う。学校や宗教施設も整っており、外国人たちのサークルもあり、暮らしやすいので、外国企業も神戸にたくさん進出している。こうした、先人たちがつくってくれた環境を活かしていかなければいけないと思う。

なお、神戸の企業は、もっと留学生を採用してほしいという大切な指摘をいただいたが、今度、外国企業サミットを行うので、その際に提案してみようと思う。

### 意見交換 ※分科会報告等を踏まえながら、参加者が自由に意見等を発表

#### <発表者>

地球温暖化に対処するには、公共交通機関をできるだけ利用するなど、脱車社会に取り組んでいくことが必要である。

自由気ままに車に乗ることは、自分勝手であり、自由の暴走だと思う。地球温暖化に対処するには、これまでの生活を根本から見直していくことが必要である。

#### <知事>

自動車の何が問題であるかといえば、化石燃料を使用していることにある。しかし、自動車ほど自由度の高い乗り物はない。

化石燃料をどれだけ使わないようにするのか。今はハイブリッド自動車が普及しているが、最終的には、電気自動車・燃料電池自動車等になるのではないかな。

私は、長距離移動はやはり大量輸送機関、身近なところは自動車などのドア・ツー・ドアの乗り物というような使い分けをしていくことが必要ではないかと感じている。将来方向として、我々の生活をどうしていくのか議論していくことが必要ではないかと感じている。

#### <発表者>

地域を活発にする、産業を活発にする、何をするにも全ては人である。  
特に、これまで企業戦士であって地域のことがわからない人間を地域戦士としてどう活用していくのか、知恵をしぼっていく必要がある。

#### <知事>

職場に出ている方をいかに地域の中のマンパワーとして、社会資産の中に取り込んでいくのかということは、非常に重要な視点である。

なお、ボランティア活動として、企業ボランティアというものが、今、盛んになりつつある。県では、森林環境の保全を進めるために、企業と協定を結び、企業の社員等の方々に森の保全活動を担っていただいている。

いずれにしても、どのような仕掛けができればいいのか、また、ご指導等をいただければと思う。

#### <発表者>

廃校となった学校施設や自治体の空き施設を地域住民が気軽に活用できるようにしていくための仕組みづくりが必要である。

#### <知事>

公共スペースの有効活用は重要である。例えば、県の事務所や、市町の統廃合により空いている旧役場などの施設を有効活用できないか現在検討を進めている。

農山村の市町が合併したところは、役場が空いていても遠いので、土日の活動に使用してもらうなど、上手に仕掛けができないか、また、そうすることで、過疎地域と都市部との交流にもつなげられないかというようなことを考えている。

いずれにしても、いい仕掛けができるかどうか、乞うご期待ということにしてほしい。

#### <発表者>

地域の夢を発信していくために、地域住民のアイデアを知恵の伝承として冊子に取りまとめるような試みも必要ではないか。

#### <知事>

地域SNSを活用し、書き込み自在のホームページをつくることで、もちろん、ある程度の参加資格の審査は必要でしょうが、これに書き込み、誰もが見ることができるようになれば、知恵の伝承へとつながるのではないかと感じた。

#### <発表者>

まちづくりはコミュニティづくりです。少子高齢社会になり、そのコミュニティが崩壊しつつある。

特に、自治会コミュニティの崩壊は著しい。まちづくり活動を行うNPOが自治会の中に入ってアドバイスや支援をしていくことが必要ではないかと考える。



<知事>

高齢者の孤独死が社会問題となっている。被災者復興住宅を整備した際に、ガスメーターを使用した安否確認を行ったりしてきたが、こうした装置も含めながらも、人が見回っていくことが一番だと考えている。そういう意味でのシステム・体制をつくっていかねばいけないと思う。

<発表者>

新型インフルエンザの関係で、学校の文化祭や体育祭は何度も中止になった。地域においてどのような対応をしていけばよいのか。

新型インフルエンザへの対応を県としてしっかり取りまとめることが大切である。

<知事>

新型インフルエンザの関係で、学校行事がどんどん潰れているので、学級閉鎖等の要件を少し緩和した。

今までは、学級閉鎖が二つになったら学年閉鎖をし、学年が二つ閉鎖したら学校閉鎖をするとしていたが、学級に一定数、複数の発生者がでたら、その学級を閉鎖するという原則にした。しかし次々と学級ごとに波及しそうだという場合には、学年閉鎖や学校閉鎖も考えていくことにした。

新型インフルエンザについては、今月いっぱい、小学校低学年以下の人たちへのワクチン接種が終わる。新型インフルエンザにかかっている人たちは若い人が多いというのが現状で、若い人たちへのワクチン接種がある程度済むと、新型インフルエンザへの感染も衰えてくるのではと考えている。ただ油断はできないので、今後とも注意して手洗い等に努めてほしい。